

# 平成23年3月期 決算説明会

平成23年5月17日



大林組

## 免責事項

当資料に記述されている業績予想並びに将来予測は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため実際の業績は、様々な要因の変化により、記述されている将来の見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。また、当資料は、投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。



私たちが、つくります。  
**We build.**  
**OBAYASHI**  
**toward 2011**

# 平成23年3月期 決算説明

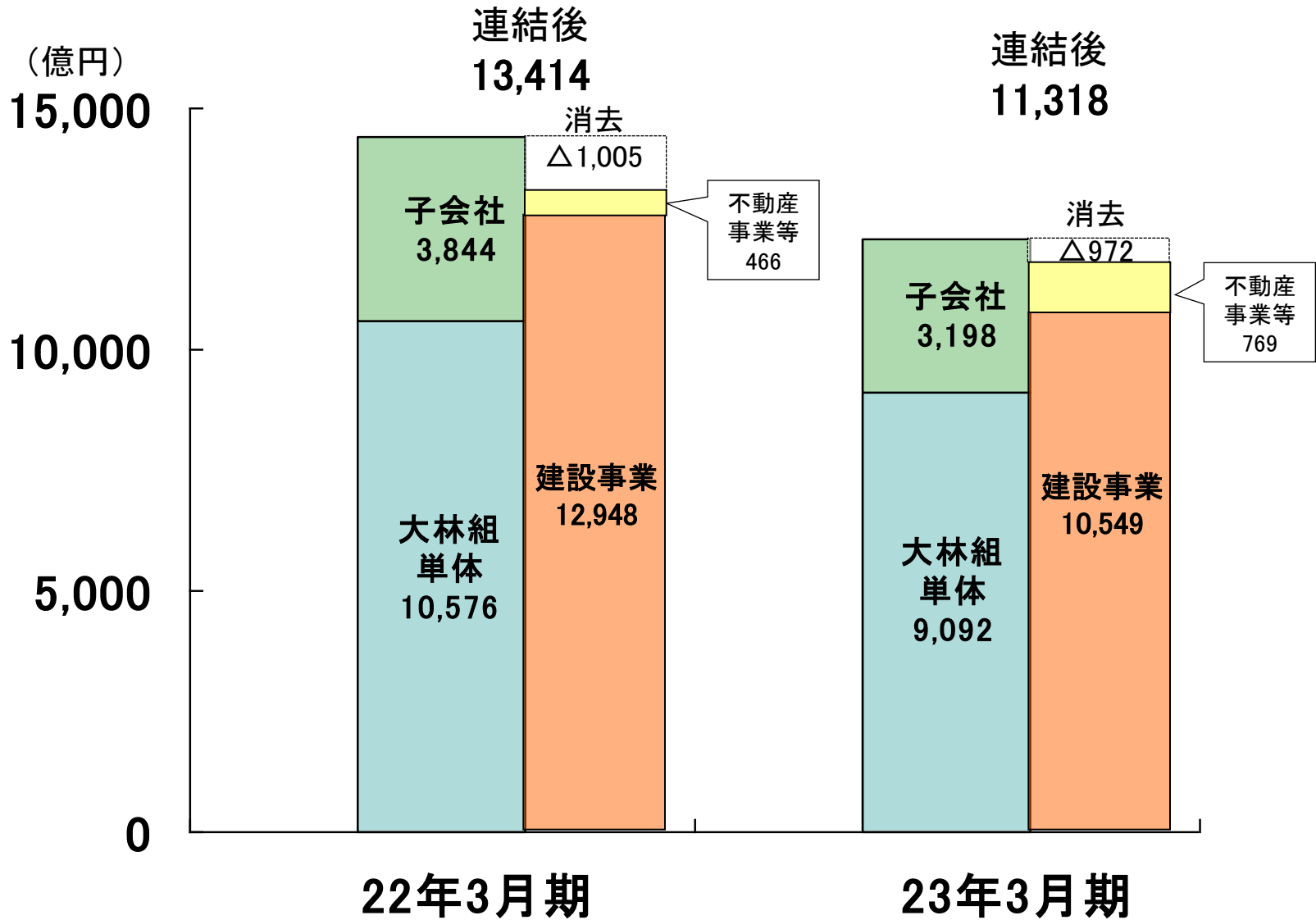
---

# 【連結】決算の概要

(単位:億円)

	22年3月期	23年3月期	増減
売上高	13,414	11,318	△2,095
売上総利益	145	997	851
営業利益 (損失)	△625	231	857
経常利益 (損失)	△596	222	818
当期純利益 (損失)	△533	154	687

# 【連結】売上高

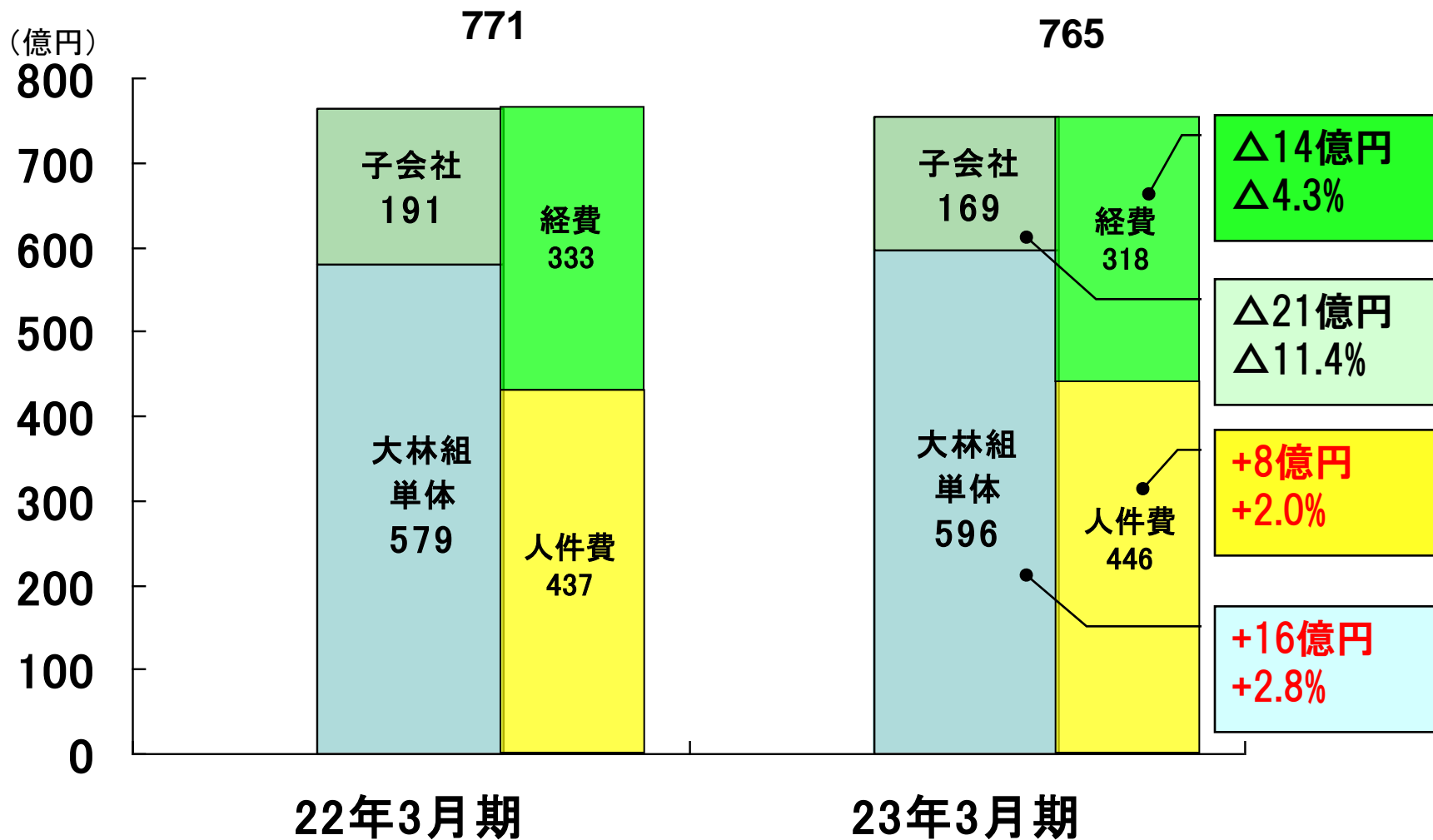


# 【連結】売上総利益

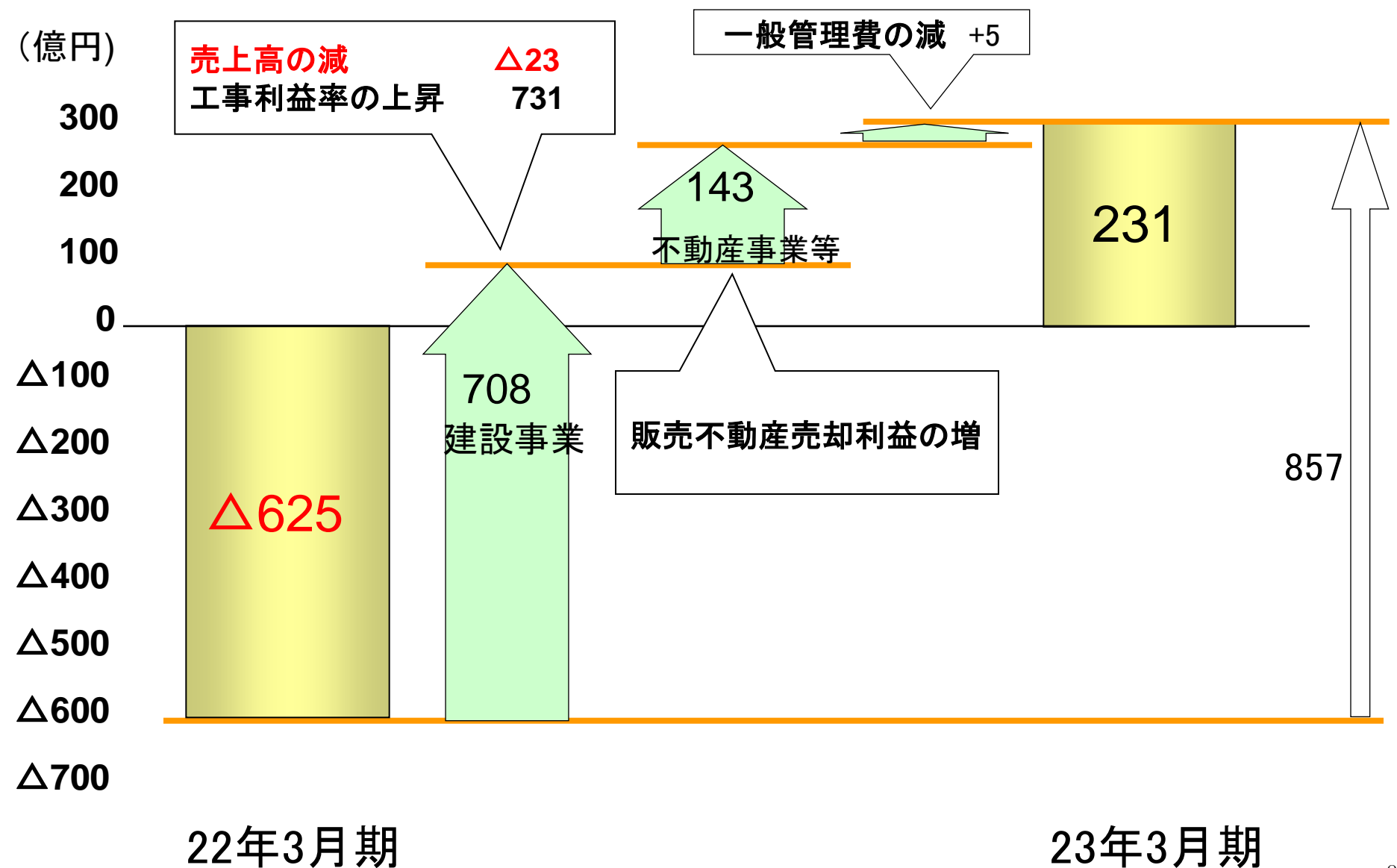
(単位:億円)

	22年3月期	23年3月期	増減
大林組単体	△121	794	915
子会社	265	223	△42
未実現利益の消去	1	△20	△21
合計	145	997	851
建設事業	128	836	708
不動産事業等	17	160	143
合計	145	997	851

# 【連結】一般管理費

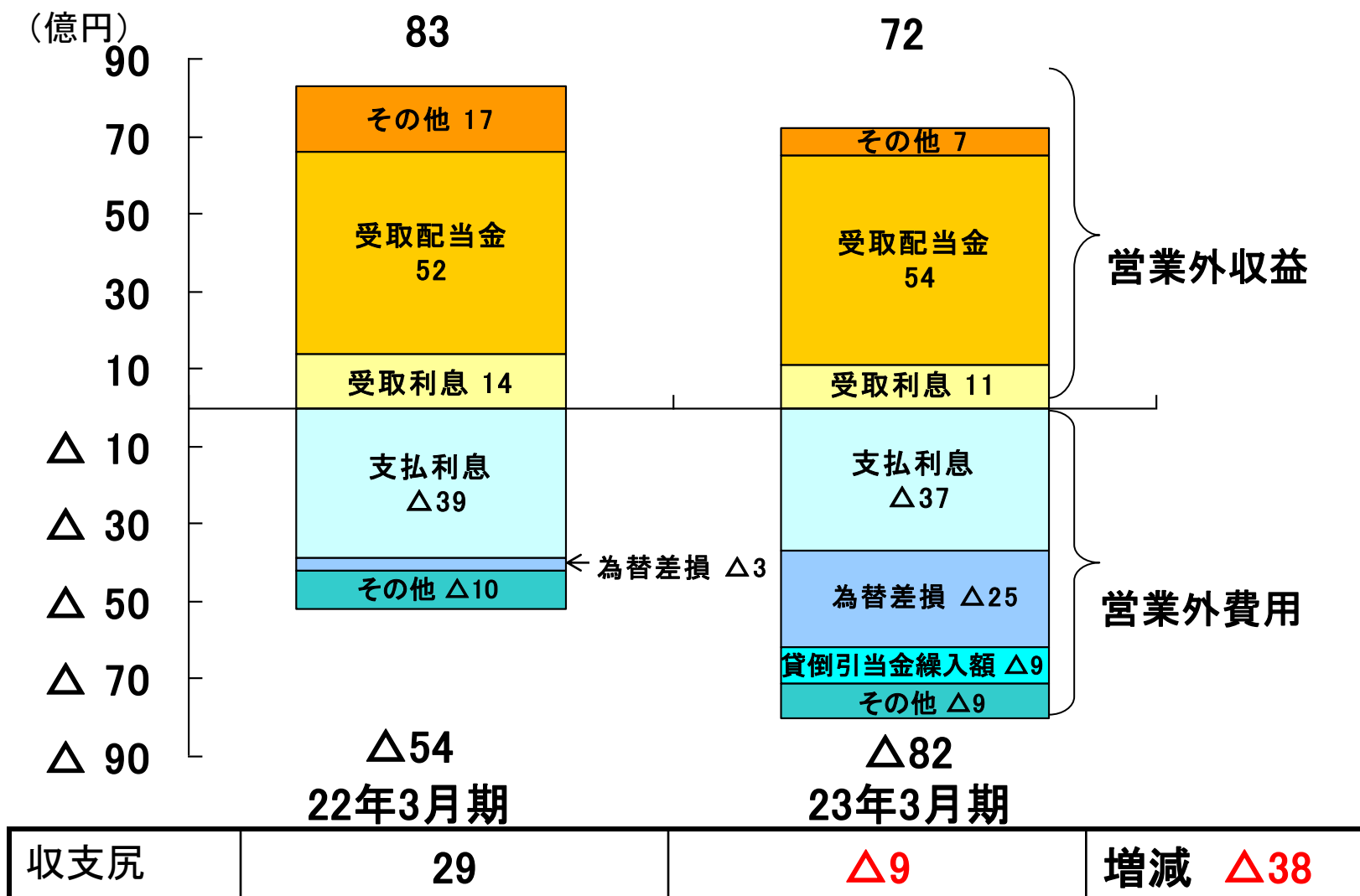


# 【連結】営業利益の増減要因

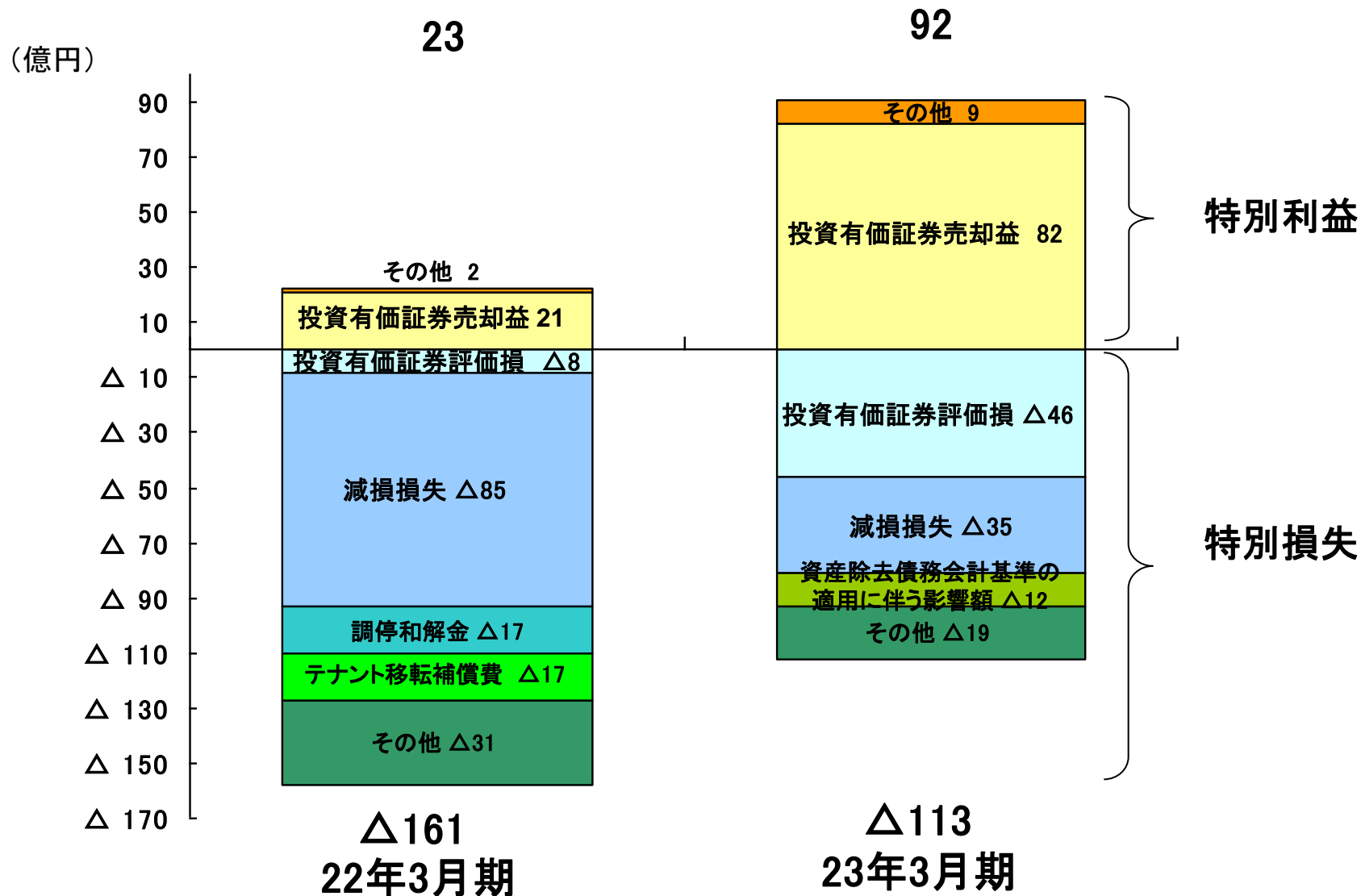




# 【連結】営業外収益及び営業外費用

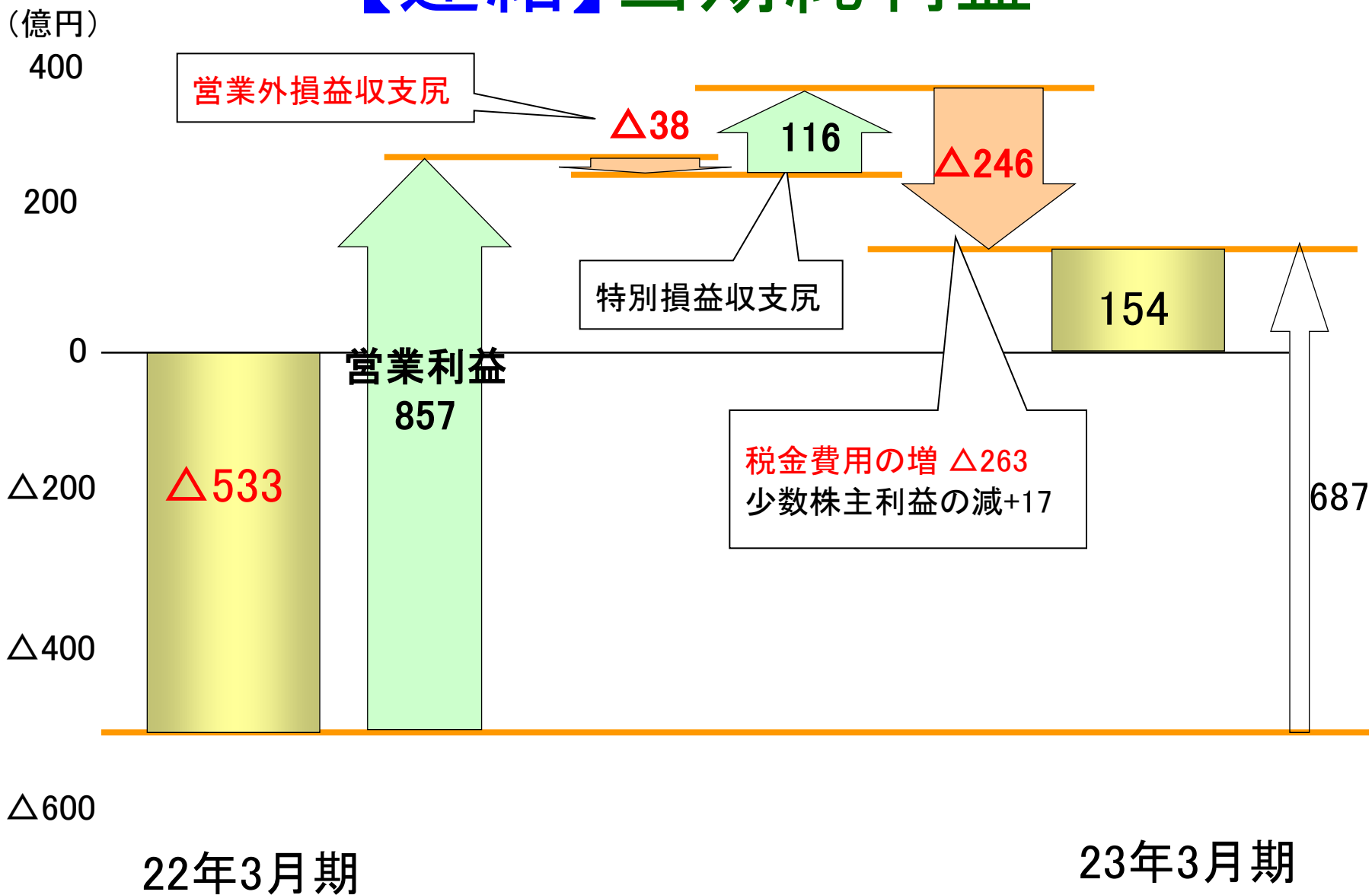


# 【連結】特別利益及び特別損失

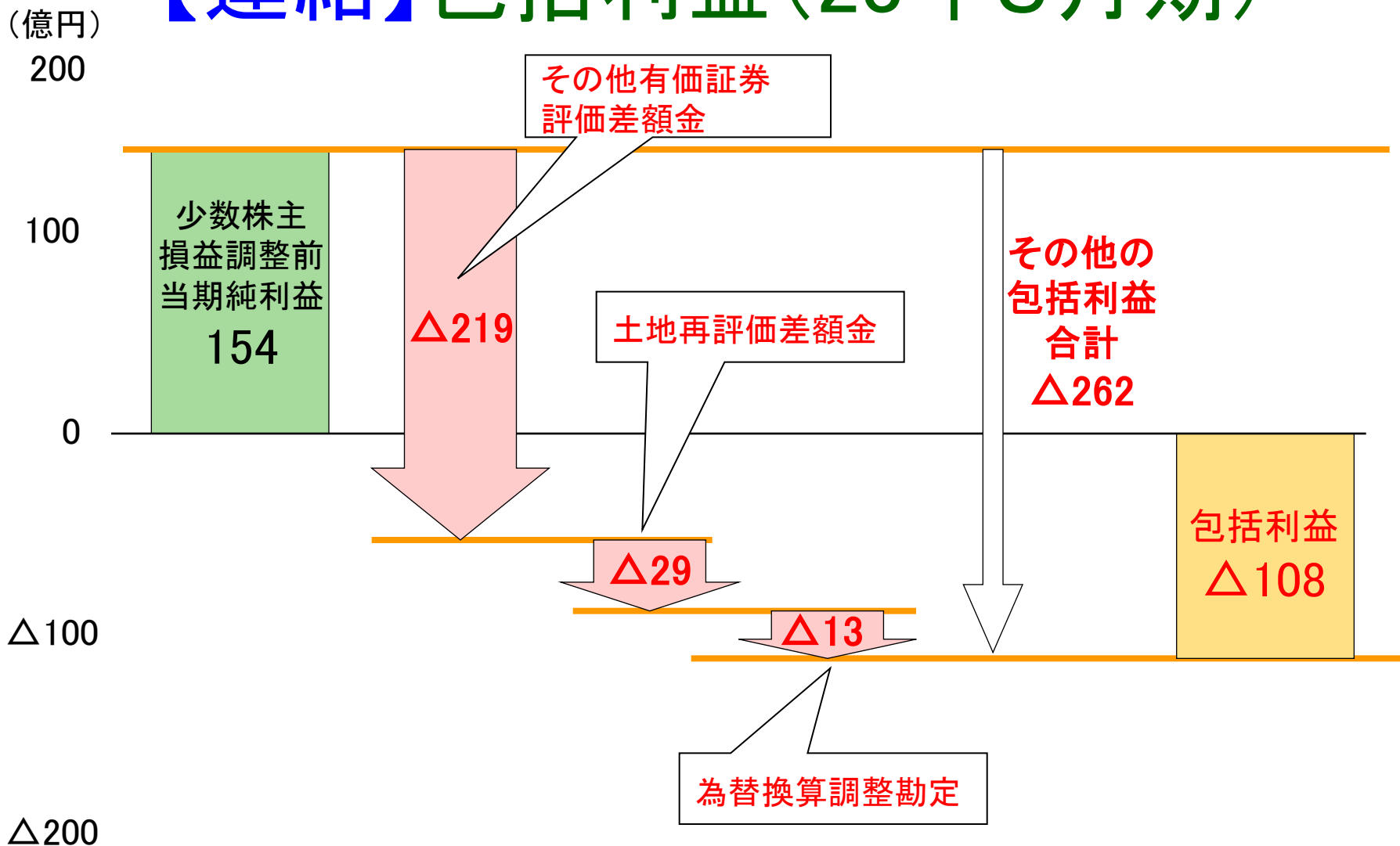


収支戻	△137	△21	増減 116
-----	------	-----	--------

# 【連結】当期純利益



# 【連結】包括利益(23年3月期)



# 【連結】BSの主な増減項目1

(単位:億円)

	22年3月末	23年3月末	増減(△)
受取手形・ 完成工事未収入金等	4,335	4,163	△171
支払手形・ 工事未払金等	4,530	4,293	△237
未成工事支出金	828	528	△300
未成工事受入金	947	600	△347

- ・「受取手形・完成工事未収入金等」「支払手形・工事未払金等」の減少の主な理由  
当期の期中施工高が減少した結果、建設事業の売上高が約2,400億円減少したため
- ・「未成工事支出金」「未成工事受入金」の減少の主な理由  
進行基準適用工事の増加に伴い完成基準の手持ち工事が減少したため  
(21年4月1日から原則としてすべての工事に進行基準を適用している)

# 【連結】BSの主な増減項目2

(単位:億円)

	22年3月末	23年3月末	増減(△)
販売用不動産	549	247	△301
建物・構築物	662	799	137
土地	2,407	2,669	261

「販売用不動産」の減少、「建物・構築物」「土地」の増加の主な理由

- ① 一部の販売用不動産について保有目的の変更により固定資産(土地・建物)に振替えた。
- ② 賃貸用土地建物(オフィスビル)を取得した。
- ③ 技術研究所に新本館「テクノステーション」・新実験施設「オープンラボ-1」を建設した。(9月完成)

# 【連結】BSの主な増減項目3

(単位:億円)

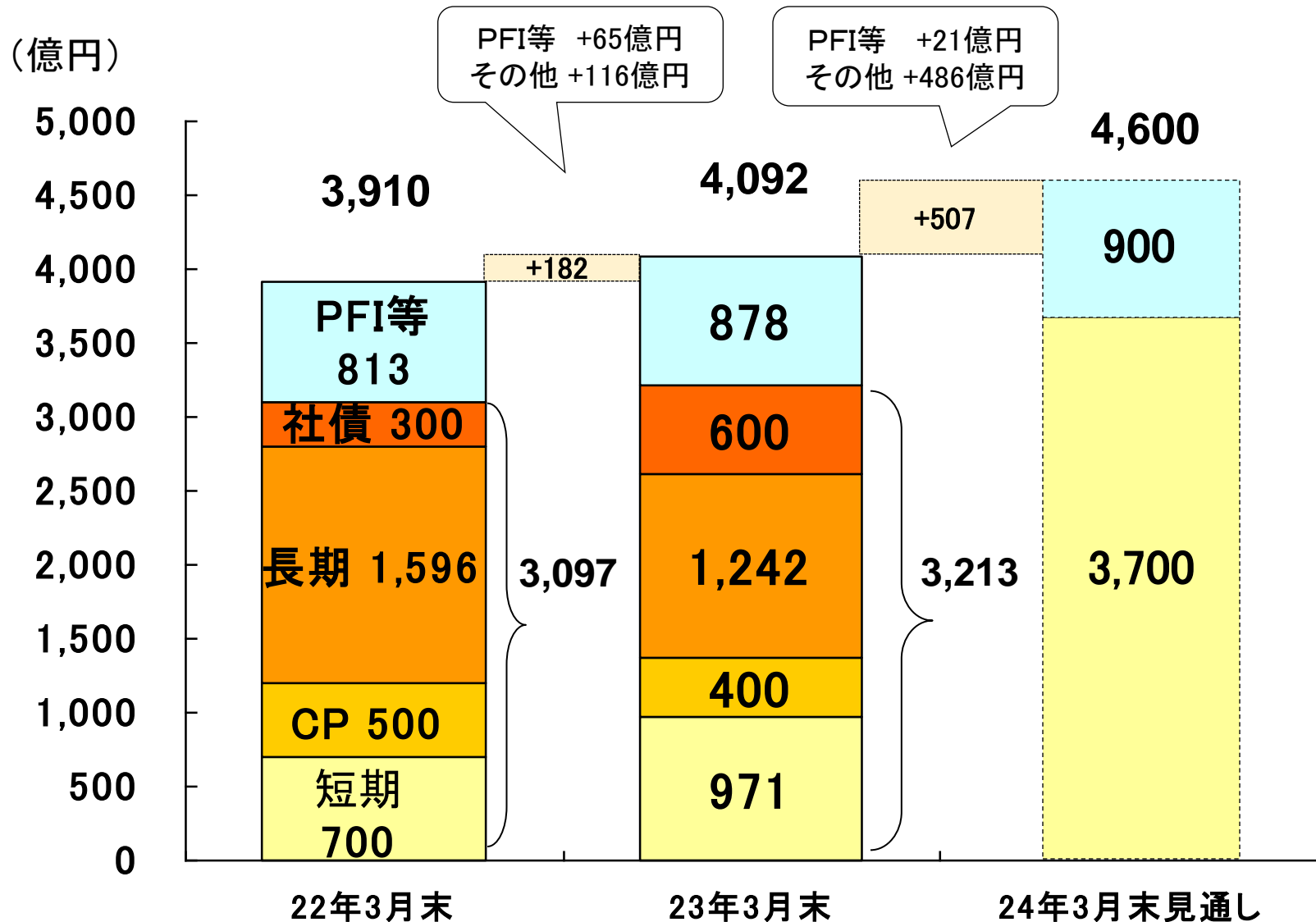
	22年3月末	23年3月末	増減(△)
投資有価証券	2,965	2,511	△453

- 「投資有価証券」の減少の主な理由  
評価益の減△287億円(大林組単体)  
売却による減△122億円(大林組単体)  
減損による減△46億円(大林組単体)

日経平均

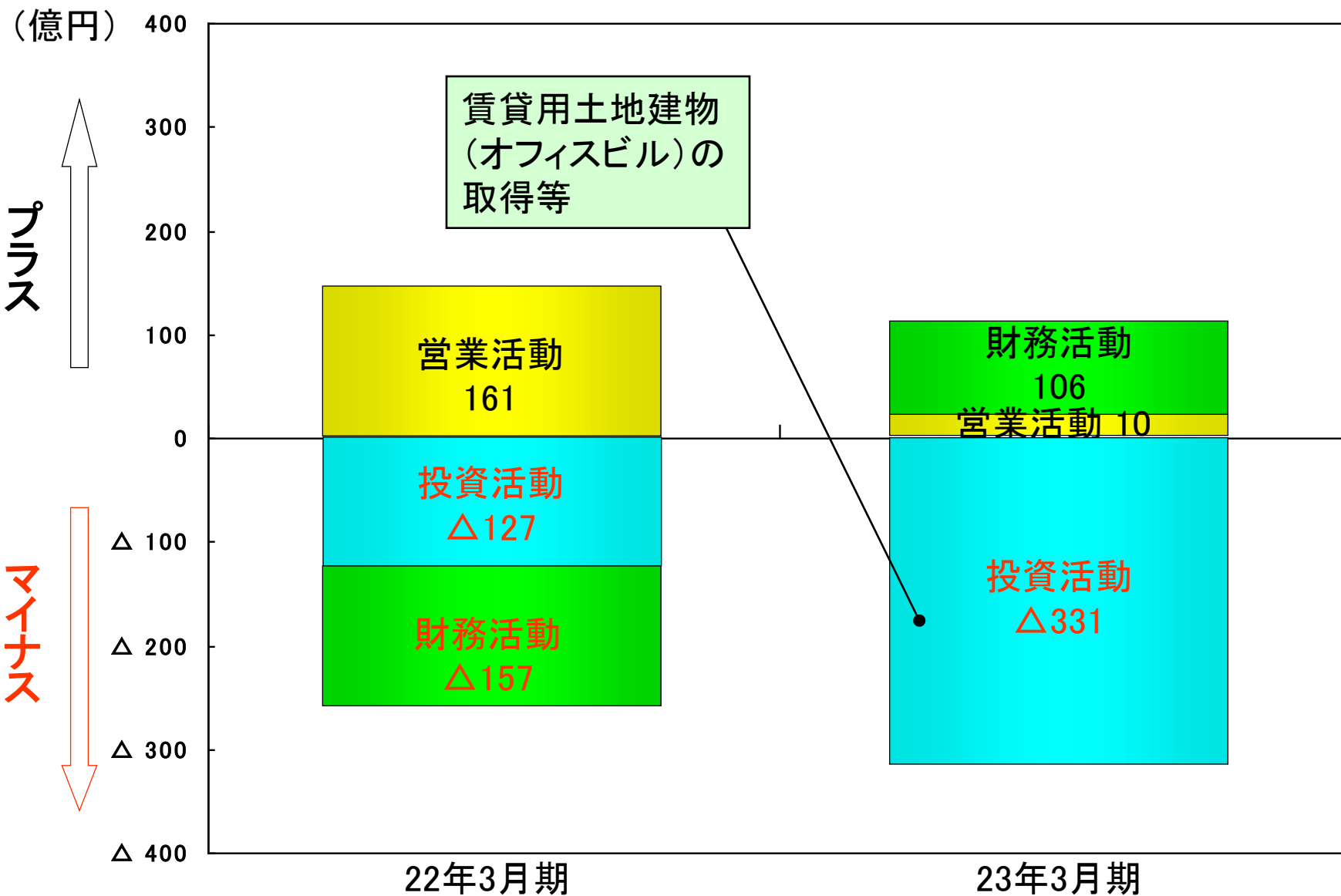
22年3月末 11,089円 → 23年3月末 9,755円

# 【連結】有利子負債の推移





# 【連結】キャッシュ・フロー

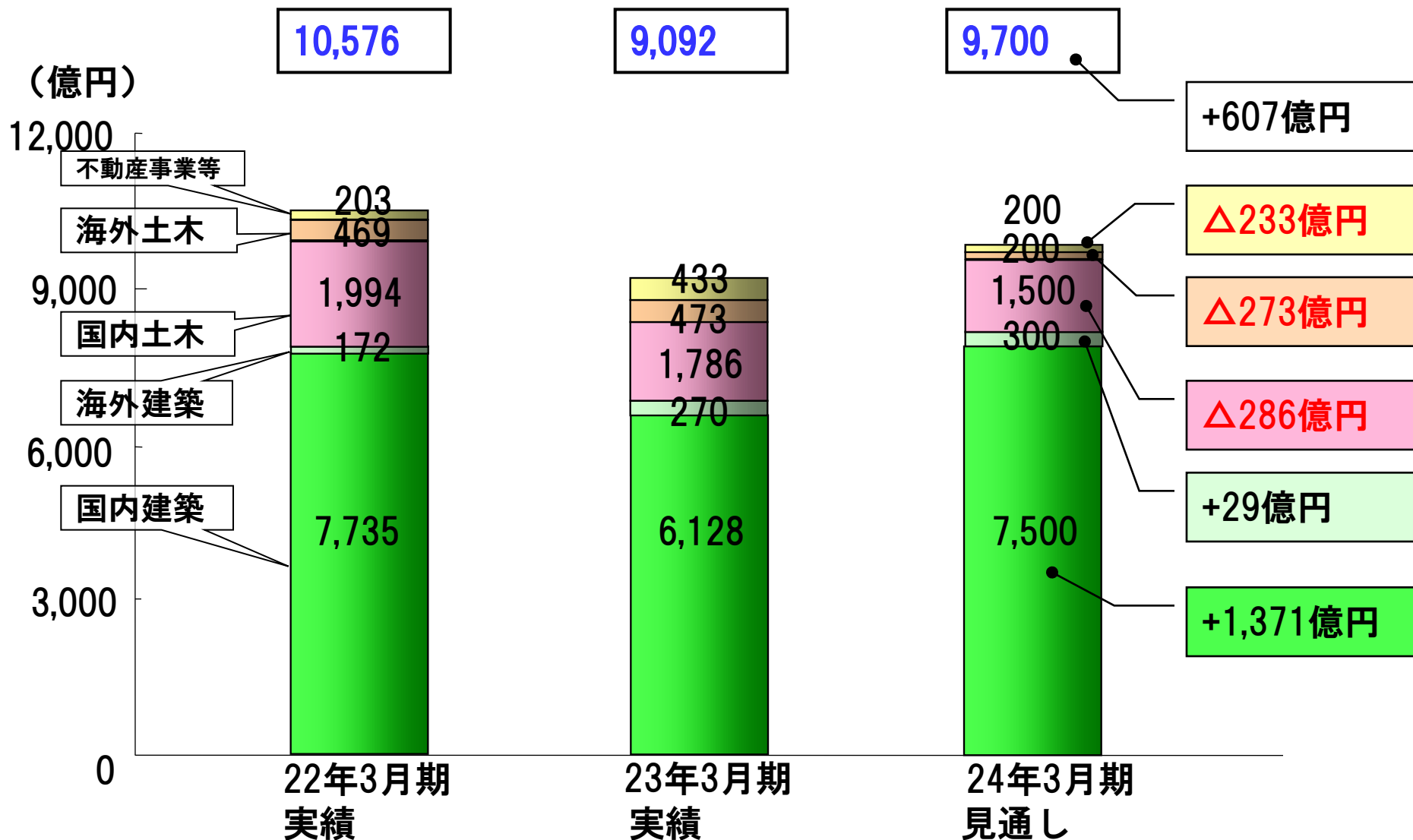


# 【連結】平成24年3月期 業績見通しの概要

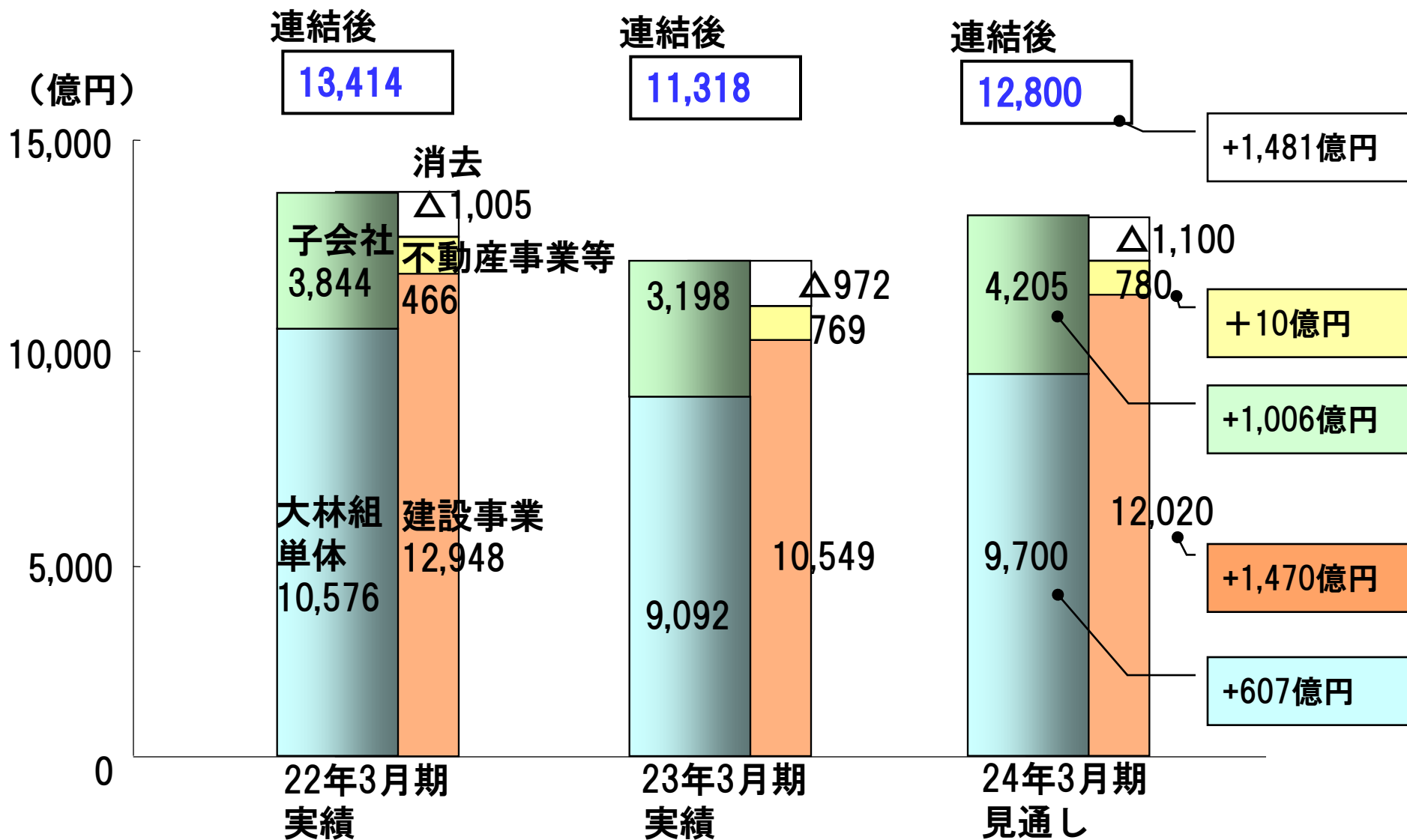
(単位：億円)

	23年3月期	24年3月期見 通し	増減
売上高	11,318	12,800	1,481
売上総利益	997	1,100	102
営業利益	231	310	78
経常利益	222	340	117
当期純利益	154	200	45

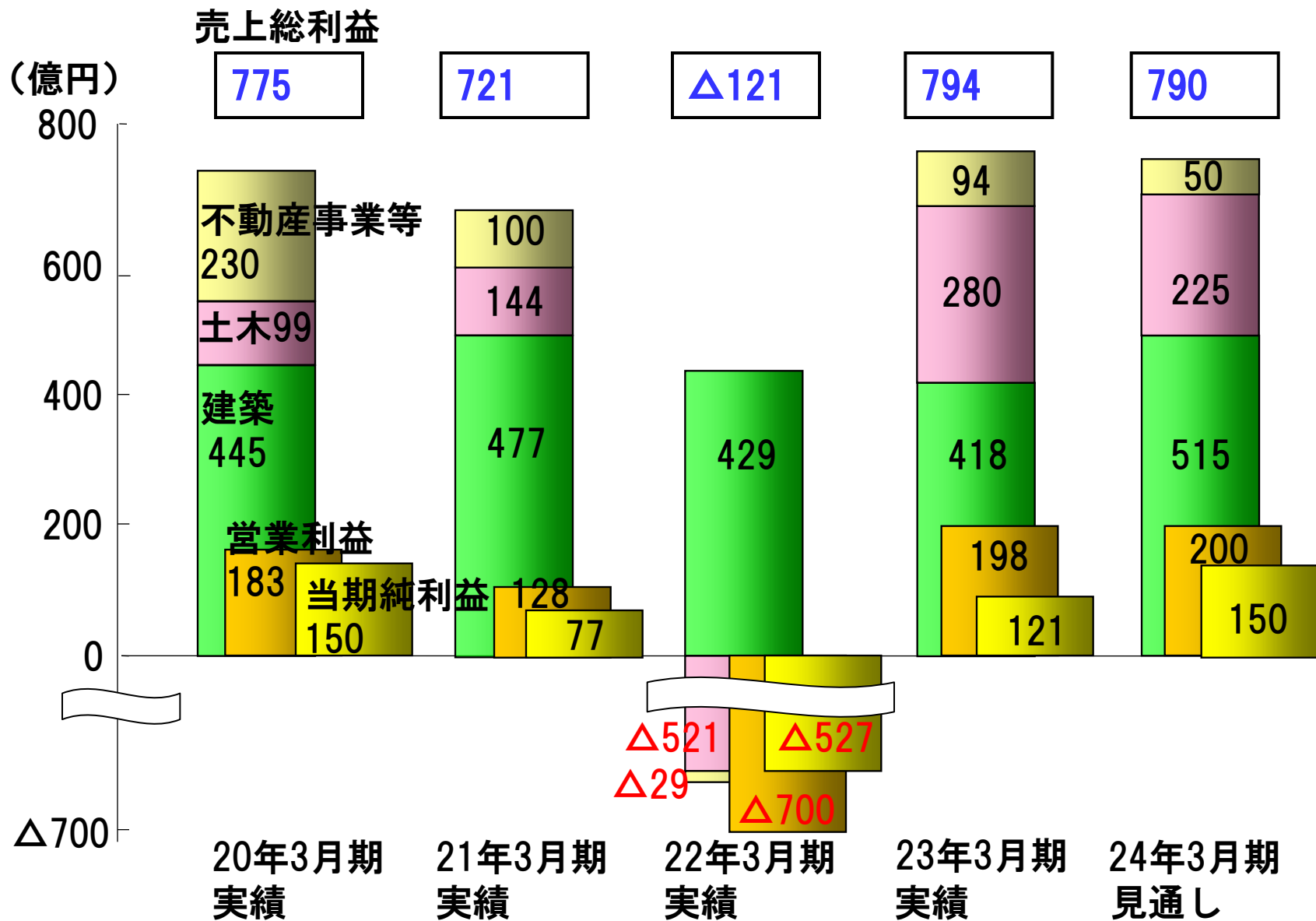
# 【単体】売上高の見通し



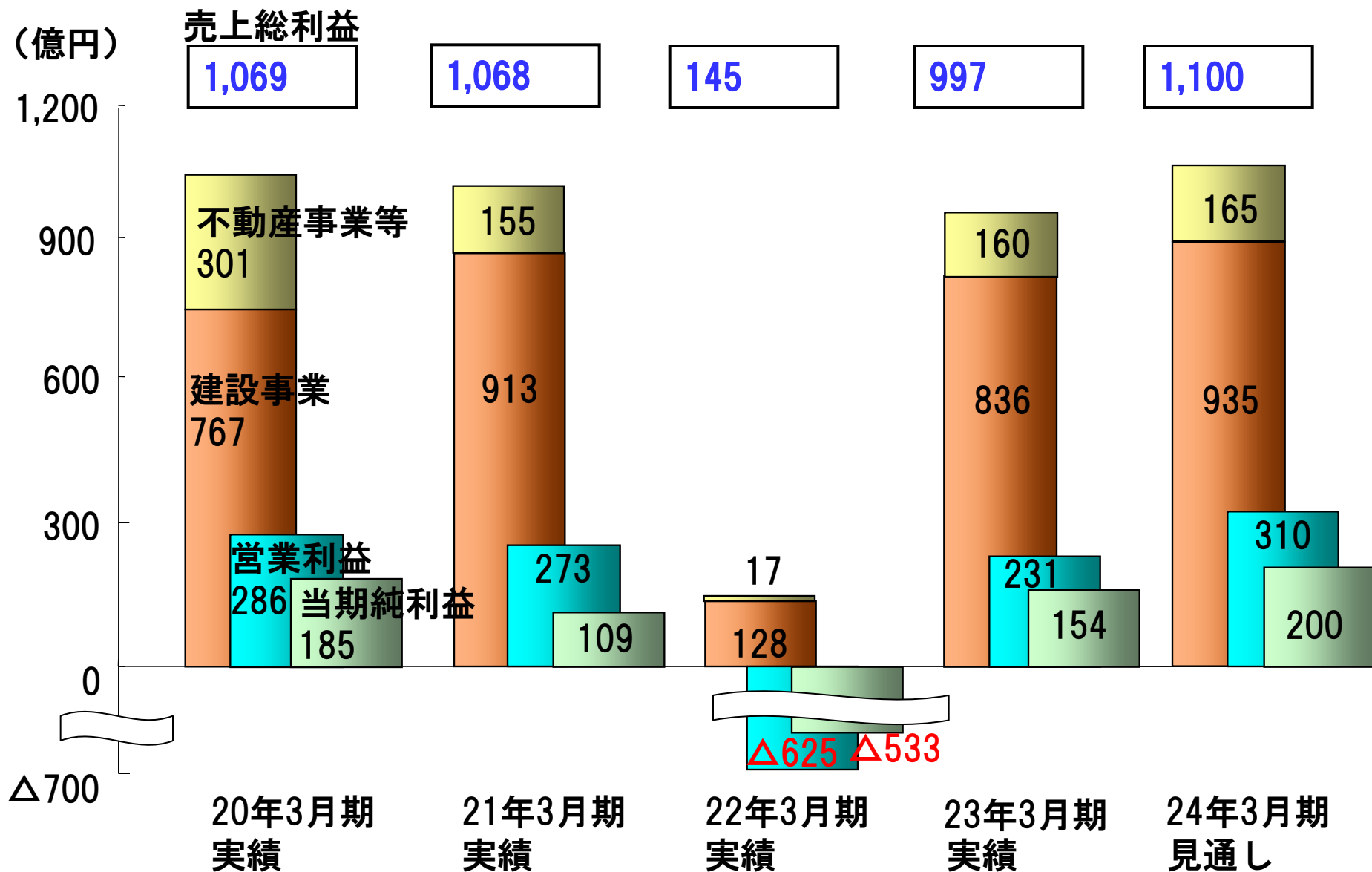
# 【連結】売上高の見通し



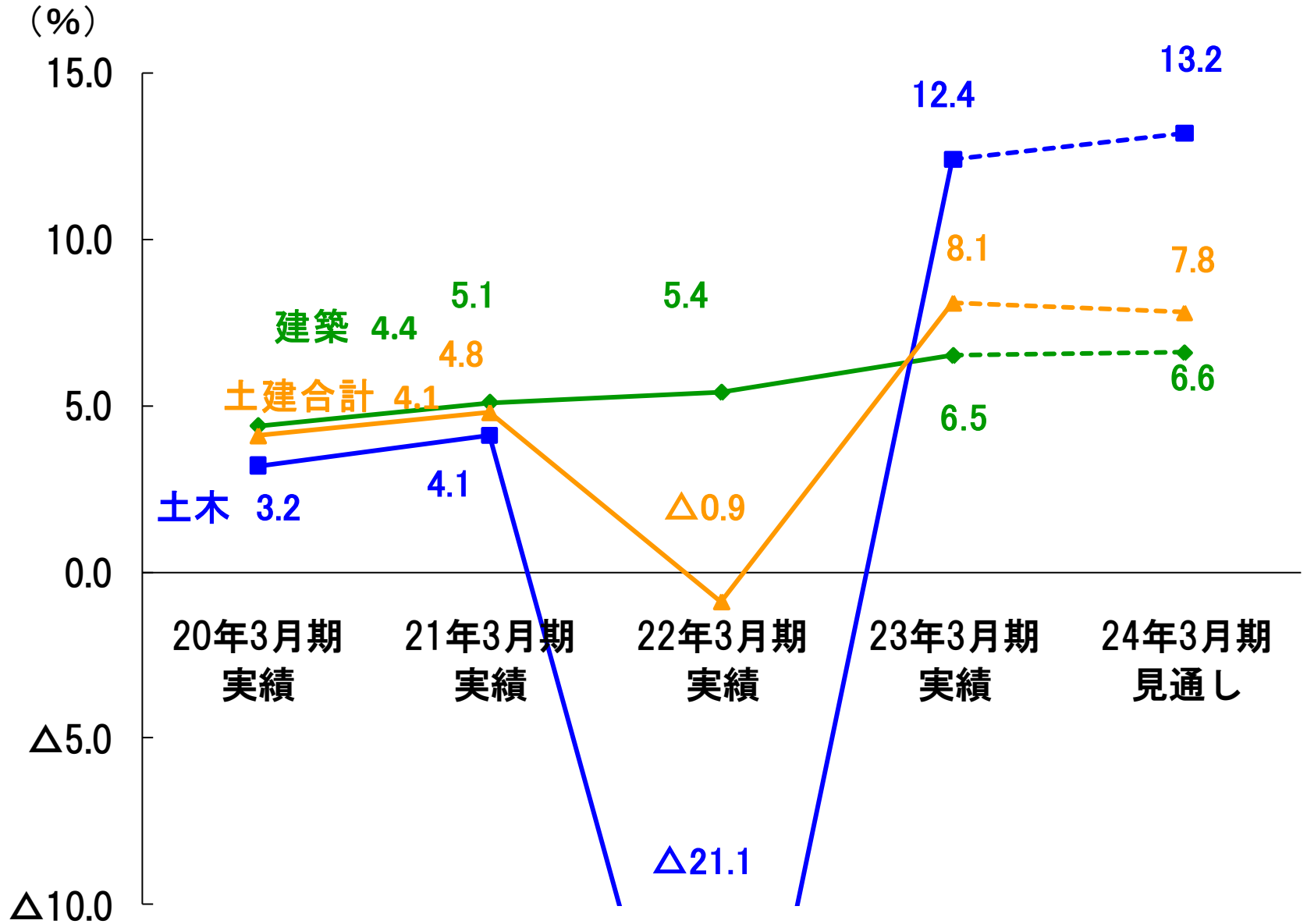
# 【単体】売上総利益・営業利益・当期純利益の見通し



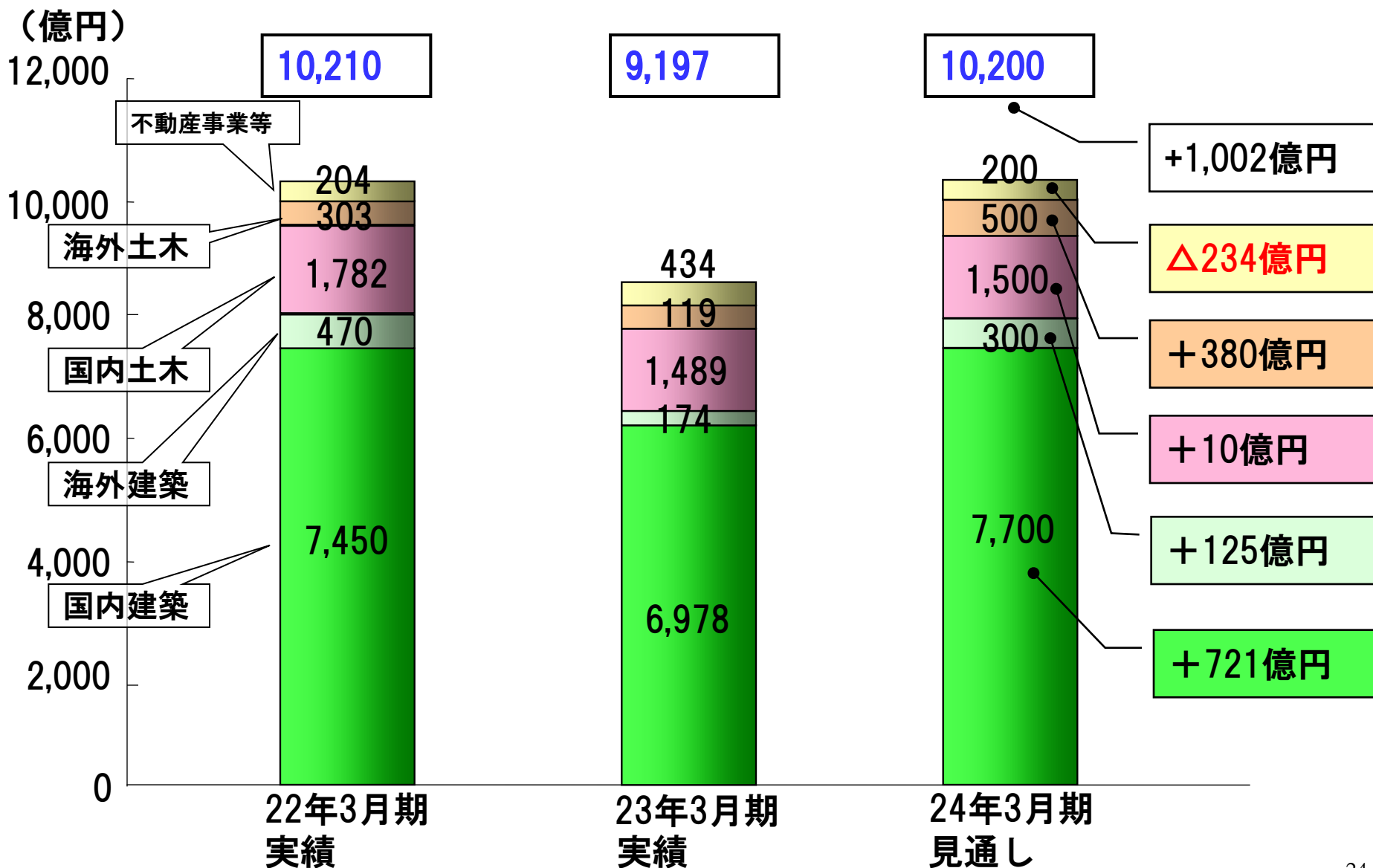
# 【連結】売上総利益・営業利益・当期純利益の見通し



# 【単体】工事利益率の推移

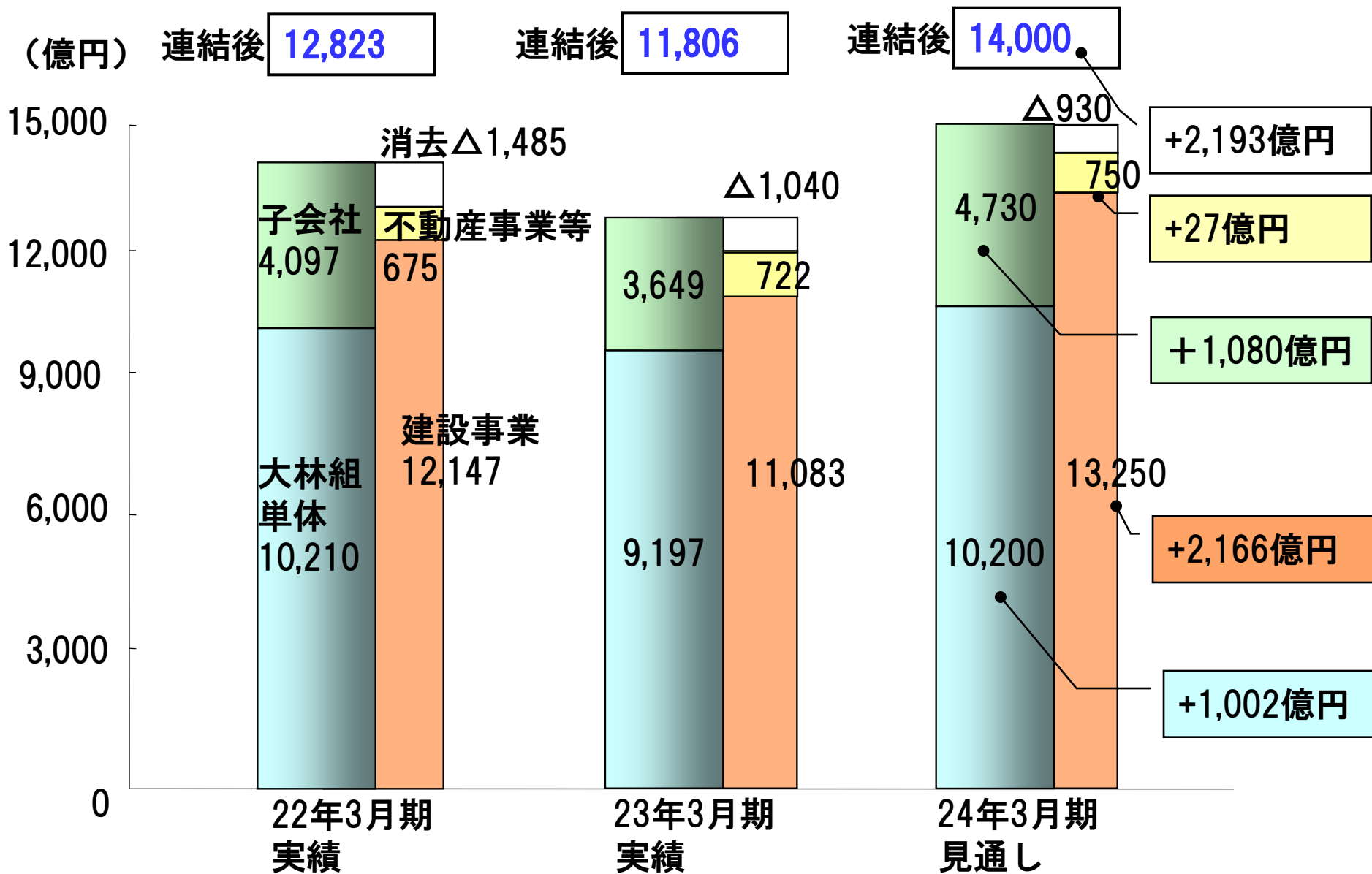


# 【単体】通期受注高見通し





# 【連結】通期受注高見通し





私たちが、つくります。

**We build.**  
**OBAYASHI**  
toward 2011

# 事業別の取り組みと方針

---

# 1 大林組基本理念

## 私たちのありたい姿

## 「地球に優しい」リーディングカンパニー

- 1 優れた技術による誠実なものづくりを通じて、空間に新たな価値を創造します。
- 2 地球環境に配慮し、良き企業市民として社会の課題解決に取り組みます。
- 3 事業に関わるすべての人々を大切にします。

## 大林組が考えるCSR

**E**ngagement（お客様に）

**G**lobal（地球・社会に）

**A**menity and Associate（私たちに）

**O**penに

## 5つ行動指針

- 1 法令を遵守し良識ある行動の実践
- 2 公正で自由な競争の推進
- 3 ステークホルダーとの健全な関係の保持
- 4 反社会的勢力との一切の関係の排除
- 5 適正な情報発信による企業活動の透明化

## 私たちは

実践すべき基本的な考え方や姿勢の宣言

～ コーポレートメッセージ ～

「地球に笑顔を」

「時をつくる ところで創る」

## 2 建設事業全般

### 震災復興への貢献

### < 建設業の社会的責任 >

- ◇関係官庁と緊密に連携し、総力を挙げて対応

### 政府土木投資の動向

- ◇震災対応予算(補正予算)の執行
- ◇計画案件の中断・延期

### 民間非住宅建築投資の動向

- ◇防災に対する意識の高まり  
耐震補強、津波対策(護岸・防潮等)
- ◇生産拠点の移転(拠点分散化、海外シフト)
- ◇サプライチェーン回復の遅れの影響 など

# ◎国内建設投資見通し

(平成23年4月26日 財団法人建設経済研究所公表)

(兆円)

	H20 見込み	H21 見込み ①	H22 見通し ②	前年度比		H23 見通し ③	前年度比		震災前(H23.1)の	
				増減率	②-①		増減率	③-②	H23見通し ア	差異 ③-ア
建設投資	47.65	42.17	39.03	-3.14	-7.4%	42.25	3.22	8.3%	40.21	2.04
民間建設投資	31.44	25.27	24.92	-0.35	-1.4%	25.59	0.67	2.7%	26.92	-1.33
民間住宅投資	16.39	13.70	13.83	0.13	0.9%	14.42	0.59	4.3%	14.67	-0.25
民間非住宅建築	9.99	7.76	7.10	-0.66	-8.5%	7.04	-0.06	-0.8%	8.08	-1.04
民間土木投資	5.06	3.81	3.99	0.18	4.7%	4.13	0.14	3.5%	4.17	-0.04
政府建設投資	16.21	16.90	14.11	-2.79	-16.5%	16.66	2.55	18.1%	13.29	3.37
政府建築投資	2.06	2.33	2.01	-0.32	-13.7%	2.04	0.03	1.5%	1.61	0.43
政府土木投資	14.15	14.57	12.10	-2.47	-17.0%	14.62	2.52	20.8%	11.68	2.94

### 3 建築事業の取り組み

(億円)

23年度  
受注目標

	連結			単体		
	H22実績	H23見通し	前期比	H22実績	H23見通し	前期比
国内	7,338	8,150	+811	6,978	7,700	+721
海外	1,507	2,100	+592	174	300	+125
建築計	8,845	10,250	+1,404	7,153	8,000	+846

#### 国内の「工事量の確保」

- ◆「利益回復シナリオのない赤字受注をしない」方針は継続
- ◇首都圏における営業強化
- ◇多様化する顧客ニーズを先取りした企画・提案

#### 成長が期待される有望市場への注力

- ◇耐震補強、省エネ改修等のリニューアル分野
- ◇医療、医薬、福祉関連分野、環境関連分野

#### 企業のグローバル化への対応

- ◇日系製造業や海外企業への対応を更に強化

# 4 土木事業の取り組み

(億円)

23年度  
受注目標

	連結			単体		
	H22実績	H23見通し	前期比	H22実績	H23見通し	前期比
国内	2,117	2,200	+82	1,489	1,500	+10
海外	119	800	+680	119	500	+380
土木計	2,237	3,000	+762	1,609	2,000	+390

## 国内の事業環境の変化への対応

- ◇市場規模の縮小 ⇒ 要員の配置転換や新規事業への取り組み
- ◆今後主要マーケットとなる「インフラの維持・更新工事」への注力
  - ・・・高度な技術を必要とする「供用しながら」道路・橋梁等を改修
- ◇土壌汚染対策工事やエネルギー関連工事への注力

## 海外事業の取り組み強化

- ◆カナダの「ケナイダン社」を買収し、北米事業を強化
- ◇アジア、中近東、オセアニア等の大型インフラ整備事業への参画

# ◎ケナイダン社の施工実績

トロント市の上水の約44%を供給するR.C.ハリス浄水場。同社はこの施設に付属する地下ろ過プラントの新設を担当。



2010年バンクーバー冬季オリンピック会場のリッチモンド・スピードスケート競技場の建設。同社は基礎工事とコンクリート工事を担当。



# 5 不動産事業の取り組み

(億円)

23年度  
売上目標

	H21実績	H22実績	前期比	H23見通し	前期比
大林組	119	* 363	+243	100	-263
大林不動産	83	100	+16	89	-10
新星和不動産	-	-	-	200	+200
主要3社合計	203	463	+259	389	-74
連結売上高	219	476	+257	400	-76

\*H22の大林組は、大型の販売物件を計上したことにより、例年より大きな売上高となっている。

## 不動産事業の収益拡大

◆「新星和不動産㈱」を完全子会社化し、不動産事業を強化

<同社の業績>

年間売上高：200億円程度

事業の内訳：分譲 75%、賃貸 15%、その他 10%程度

⇒ 大林組、大林不動産、新星和不動産が連携して、

賃貸事業を主体とした不動産事業の安定収益基盤を拡充

## 6 技術開発・ICT関連の取り組み

### 「顧客のニーズに合致した」技術開発とICTの活用

- ◇リニューアブル建築向け省エネルギー総合評価システム「エコナビ® (リニューアブル建築版)」を開発
- ◇沿岸域での施工に適した高耐久・高強度な「海水練り・海砂コンクリート」を開発
- ◇「低炭素社会」の実現に向けた取り組み
  - 低炭素型の施工
  - 低炭素型の技術や資材の開発・普及
- ◇生産性向上に資するICT活用の推進

## ～環境への取り組み～

自然光を利用した技術研究所  
本館テクノステーション

省エネ照明デザインアワード  
(環境省主催)の優秀事例  
に選出された



## ～お客様満足のために～



大林組の環境技術で社会のためにできること  
長年にわたり取り組んだ  
「六花の森プロジェクト」

六花亭製菓、自治体と協力し、  
地域の文化施設づくりに貢献

～20年にわたる長年の取組み～

日本建築学会賞を受賞

## 7 利益配分について

### 利益配分に関する基本方針(変更なし)

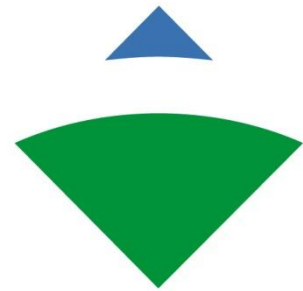
- ◎長期安定配当の維持を第一に
- ◎財務体質の一層の強化、将来に備えた技術開発、設備投資等を図るための内部留保



連結配当性向 20%～30%の範囲を  
目安として、利益を株主に還元

平成23年度年間配当金は8円(予定)

※平成22年度期末配当は4円を予定



**OBAYASHI**